

## 第10回「イクメンの星」に選定されたKMのプロフィールと体験談

ニックネーム	KM
本名	-
職業	会社員
年齢	44歳
イクメン宣言	
イクメンなんて軽い言葉では表せませんが、実質、イクメンなんでしょうね。躓いてばかりですが、どこまでも家族と一緒に歩いて生きていきたいと思います。	
育休・育児体験談	
<p>出産後2ヶ月がたった時、妻が産後うつを発病してしまい、生活は一転しました。もともと病気を持っていた様ですが、今回は、重症だと診断されました。</p> <p>最初、出産した病院の精神科に行ったのですが、「産婦人科や小児科との連携は一切しません」と冷たくあしらわれ、急遽、他の病院を4箇所くらい探し回りました。見つけた病院では産後うつという状況を考慮してくれ、母乳に影響のない薬を選んでくれたり、婦人科の先生と連携して処方してくれたり、探せばあるものです。この病院には感謝しています。</p> <p>また、子供の方は、母親が育児できなくなってしまったのですから、急遽保育園を探しました。残念ながら、区の認可保育園は全滅で、しかも「本来、保育園は病気の為でなく、就業の為です」とわざわざ釘をさされるなど、役所の担当者は、大変辛い対応でした。結局、認可外の私立の小さな保育園にお世話になり、1年半経った今でも、同じ園に通っています。</p> <p>こんな状況なので、ある意味、育児休業を取得せざるを得ず、4ヶ月ほど利用しました。ただ、計画的に取得したわけでは無い為、当座の生活費とか、税金や保険料など、予定外の現金出費が発生し、妻の入院・治療費とあわせて、かなり厳しく、預貯金を全て放出してしまった感じです。</p> <p>今でも、妻は、常時伏臥状態で、外出もままならず、育児時間も制限されるなど、重篤な状態です。また、祖父母のサポートも、ほとんど受けられないため、民間のシッターサービスなどの支援を受けながら、育児時間短縮勤務を利用して、私一人で、育児と介護と仕事をこなしています。会社からは、「男が、長期の育休や時短など使うのは、初めてだ」と嫌味をいわれますが、まあ、だいぶ吹っ切れてきて、開き直って活用しています！</p> <p>なかなか同じ様な境遇の方と知り合える機会もないのですが、何となく、投稿してみました。これからも、がんばって生きましょう！</p>	

第 10 回「イクメンの星」に選定された天宮賢也さんのプロフィールと体験談

ニックネーム	天宮たかなり
本 名	天宮賢也（あまみやたかなり）
職 業	会社員
年 令	33 歳
イクメン宣言	
<p>私は、子どもが生まれて6年以上主夫をしてきました。4月から仕事を始めましたが、これからも変わらずに子どもに接してゆき、子どもたちと楽しい思い出と、しっかりとした人間に育っていくように頑張ることを宣言します。</p>	
育休・育児体験談	
<p>3姉妹（6・5・3歳）の父です。長女が生まれ6年半、専業主夫です。妻が産休から仕事復帰をした当初は、赤ちゃんと二人きりで昼間どう過ごしたら良いのか不安でしたが、不安がっている間はなく、妻が母乳を飲ませる以外のこと、炊事、洗濯、掃除、買い物、育児を100%行いました。</p> <p>育児本を熟読実践し、離乳食は調味料や添加物に気をつけました。天気の良い日は長女をベビーカー、次女をおんぶするスタイルで周りの視線が気になりましたが、今しか出来ない育児経験に幸せを感じました。</p> <p>長女、次女と幼稚園に入園してからは、送迎をし、園の行事には全て参加しました。三女をおんぶしながらPTA会長となり、我が子は保育時間中に僕を見つけるととてもうれしそうにニヤニヤしていました。僕は子どもたち以上にうれしくてラッキーだと感じました。</p> <p>育児経験を形に残したいと思い、妻の協力のもと幼稚園の教員免許を所得しました。料理にも目覚め、お菓子作りは趣味になりました。出来栄はママ友にも大好評です。また子どもと一緒に料理をすると感性や表情、新たな発見ができて最高です。</p> <p>今年の3月まで福島県に住んでいました、震災でマンションは全壊になりました。2日間家族が離れ離れになってしまい、無事再会出来た時には家族の絆を強く深く感じました。4月からは群馬県に移住して新たな生活を始めましたが、子どもたちが不安を感じないよう、がれきの中から子どもたちの工作やおもちゃを探して運びました。</p> <p>移住と避難が同時でしたが、僕も4月からは兼業主夫となりました。それでも子どもが大好きな僕は幼児を対象に、工作・科学実験教室をボランティアで行っています。長女は小学校1年生となり、今度は小学校の絵本ボランティアの読み聞かせに参加したり、二人の子どもが新たに通う幼稚園について実験教室を開いています。</p> <p>これからも子どもたちが何歳になっても育児をするお父さんとして子どもたちから離れません！</p>	